



常に青春を走り続ける エネルギー

横尾さんの作品を見ると、随分自由に、好き勝手に描かれているので、こんな風に生きていけるならいいなとつい思ってしまう。実際には、様々な現実の問題と格闘しながら、創作を続けてこれたのだらうと思いますが、横尾さんの作品は、それを全く感じさせないほど自由なエネルギーに溢れています。そこに描かれている夢の世界は、私たちの好奇心を刺激します。この美術館を訪れた人々が、常に青春を走り続ける横尾さんの作品を見て、自分も青春を駆けてみたい、という気になれば素晴らしいと思います。一人でも多くの方々に、横尾作品の持つパワーを、現地で感じて頂けたらと思います。

養豊長とともに展示室を見て回る横尾さん



作品を収める 最上の場所

横尾さんとは初めて会ったときから他人とは思えませんでした。ずっと横尾さんのことが気になって仕方なくて、最近一番心配だったのは、あの膨大な作品が、横尾さんが亡くなったらどうなるんだらうということでした。作品がどこに収まるのか見届けるまでは死ねないと思っていたので、生きている間にこんな最上の場所に収まって、それを見られて本当に良かったと思います。これで遺族も税金に困らなくて済みますね(笑)。横尾さんが歩けば若い人がぞろぞろついてくる、これはすばらしいことです。横尾さんの作品は子供に見せてはいけないと言う人もいますが、全然そんなことはありません。横尾さんの作品は子供たちの感性にすんなり映ります。今日は本当におめでとうございました。

玄関には各界著名人からの花が到着



横尾作品と出会い 奮い立つ

横尾さんとは本当に長い間、40年くらいの付き合いです。日本に帰って来たときに横尾さんの展覧会に行き、私が何かもご存知ないのに、横尾さんのデザインをイタリアのプリントでぜひ表現してみたいと無理やり押しかけて仕事を頼みました。それから(パニコレの)招待状のデザインもやって頂きましたが、これは本当に見事な連作ができています。横尾さんに会うと、とにかく燃えて帰ってくる。横尾さんってそういう人なんです。これからは(自分を奮い立たせる)必要があったらここへ来ればいいんだ、という場所が出来て、とてもうれしいですね。

500名を超える関係者の方々にお越し頂きました



Information インフォメーション

開館記念展Ⅱ

横尾忠則展「ワード・イン・アート ～字は絵のごとく 絵は字のごとく」

2013年3月2日(土)～6月30日(日)

休館日：月曜日(ただし4月29日(月・祝)、5月6日(月・振休)は開館、4月30日(火)、5月7日(火)は休館)
観覧料：一般800(600)円、大学生600(400)円、高校生・65歳以上400(300)円、中学生以下無料
※()内は前売料金および20名以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売なし)
※障害のある方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(65歳以上除く)

関連イベント

記念アーティスト・トーク

絵の中の文字

講師：横尾忠則

3月2日(土) 14:00-15:30

会場：オープンスタジオ(1F)

※聴講無料(150席・当日先着順)

記念講演会

絵の中の言葉たち

講師：加治屋健司(広島市立大学准教授)

5月18日(土)14:00-

会場：オープンスタジオ(1F)

※聴講無料(150席・当日先着順)

横尾忠則公開制作

4月13日(土)、14日(日)、

6月15日(土)、16日(日)の午後(時間未定)

会場：オープンスタジオ(1F)

※観覧無料

※日程は変更される場合がありますので、HPなどでご確認ください

キュレーターズ・トーク

講師：当館学芸員

3月23日(土)、4月20日(土)、5月4日(土)、

6月1日(土)

14:00-14:45

会場：オープンスタジオ(1F)

※聴講無料(100席・当日先着順)

兵庫県立美術館 | 展覧会スケジュール

特別展 | フィンランドのくらしとデザイン ムームンが住む森の生活

1月10日(木)～3月10日(日)

特別展 | 超・大河原邦男展 —レジェンド・オブ・メカデザイン—

3月23日(土)～5月19日(日)

特別展 | 奇跡のクラーク・コレクション ルノワールとフランス絵画の傑作

6月8日(土)～9月1日(日)

コレクション展 | コレクション展Ⅲ

2012年11月17日(土)～2013年2月24日(日)

コレクション展 | コレクション展2013-I いのちの色 美術に息づく植物(仮題)

3月9日(土)～6月23日(日)

※兵庫県立美術館の特別展又はコレクション展の有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどでご確認ください)

編集後記

横尾忠則現代美術館ニュース「the Y+Times」の記念すべき第1号が発行されました。美術館では日々さまざまな活動が行われています。その表も裏も、みなさまにどんどんお伝えできればと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(林)

開館記念展I「反反復復反復」メイキング

展覧会の舞台裏を、すこしだけ紹介します!

2F展示室、仮設壁に白いクロスを貼っていきます



1Fオープンスタジオのポスターも反復されています



出来上がった壁に作品が掛けられます。3人掛かりで、慎重に!



壁装飾と切り文字も完成 11月3日、無事展覧会がオープンしました



Y+T MOCA

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-863-3888

開館時間

10:00-18:00

(金・土曜日は10:00-20:00)

※入場は閉館の30分前まで

休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始

メンテナンス休館



Special Report 2012年11月3日、横尾忠則現代美術館オープン!

Event Report

- 01 開館記念アーティスト・トーク
- 02 細野晴臣ミニライブ
- 03 歳末大公開制作
- 04 オープンスタジオコンサートVOL.1

Column

作品・資料の保存と活用

Preview

開館記念展Ⅱ 横尾忠則展 ワード・イン・アート ～字は絵のごとく 絵は字のごとく

Editors' Choice

MUSEUM SHOP

Information

次回展関連イベント
兵庫県立美術館
展覧会スケジュール

開館記念号 **01** 2013.02.20

Special Report 2012年11月3日、横尾忠則現代美術館オープン!



開会式で挨拶する養豊館長

2012年11月3日、横尾忠則現代美術館が開館を迎えました。沢山の方々新しい美術館に期待を寄せ、その誕生を祝って頂きましたこと、大変嬉しく思っております。より多くの方に美術館に足を運んで頂き、横尾ワールドを体感して頂くため、当館では展覧会のほか、公開制作やワークショップ、コンサートといった多彩なイベントや、アーカイブ資料の整理・公開など、様々な活動を展開しています。また、すでに大好評頂いている併設のミュージアムショップやカフェはもとより、美しい六甲の山並みが一望できる4階北側の休憩コーナーは、当館の隠れた人気スポットとして、多くの方に楽しんで頂いております。そうした当館の情報と活動の成果を皆様にも早く、臨場感を持ってお伝えするべく、このたび横尾忠則現代美術館ニュース「the Y+Times」を創刊する運びとなりました。当館では今後も様々な取り組みを通じて、横尾芸術の魅力を発信し続けてまいります。横尾忠則現代美術館のこれからの活動にぜひご注目ください。 館長 | 養豊



大盛況の3F展示室



開館の喜びを語る井戸敏三兵庫県知事



知事サプライズのケーキにナイフを入れる横尾夫妻

15:00 内覧会

開館記念展I 横尾忠則展「反反復復反復」の内覧会がスタート。受付開始と同時に大勢の方がご来場され、展示室はすぐに大混雑となります。注目は、1960年代の絵画シリーズ「ピンクガールズ」の反復作品がまとめて展示された3階展示室。その壁には、横尾さんがそれぞれの作品の制作年をマジックで直書きされています。一方、1階エントランスには、俳優の高倉健さん、ミュージシャンの坂本龍一さん、映画監督の山田洋次さん、哲学者の梅原猛さん、アーティストのオノ・ヨーコさん、写真家の蛸川実花さんなど、ジャンルを超えた様々な分野の方々から贈られた花が入口を埋め尽くさんばかりに並べられていきます。横尾さんの多方面での活躍ぶりを反映した、通常的美術館ではなかなか見られない光景です。

16:00 開館記念式典

記念式典では、冒頭に井戸敏三兵庫県知事が挨拶を行い、「横尾さんと一緒に遊ぶような気持ちで、楽しんでもらえる美術館になってほしい」と、美術館への期待を寄せました。続いて横尾さんが壇上に上がり、「神戸は僕の人生が決定した場所へ帰ってきたような感じです。僕は雄だから産卵はできないけれど、小さい卵みたいな作品をこれからも作っていきたくと思います」と抱負を述べました。さらに、横尾さんと親交の深い建築家の安藤忠雄さん、作家の瀬戸内寂聴さん、デザイナーの三宅一生さんからもそれぞれお祝いの言葉をいただき、最後に当館の養豊館長がお世話になった関係者の方々へ感謝の意を表して、閉会となりました。 養豊館長の乾杯の発声とともにパーティーがスタート。横尾さんはテレビや新聞などの取材対応に追われながらも、訪れた一人ひとりの方々と歓談を楽しまれておりました。

Preview 開幕記念展Ⅱ 横尾忠則展 ワード・イン・アート～字は絵のごとく 絵は字のごとく

2013年3月2日(土)～6月30日(日)



《神は死んだ》2009年 | 作家蔵

開館第2弾目の展覧会では、横尾忠則の絵画に様々なかたちで書き込まれた文字に注目します。絵画に文字を書き込むこと自体は、とりたてて珍しいことではなく、東洋美術や、中世までの西洋絵画、あるいは近現代の美術でもしばしば行われています。横尾の作品における文字の独自性は、その文字が用いられる意味の多様性にあります。それは、描かれた物の名前を表示する文字であつたり、風景画の中の看板の文字であつたり、あるいは画家の思想を直接的に語るメッセージであつたりします。

本展では、画家・横尾忠則の作品にみる文字の様々なあり方を、「絵のなかのタイポグラフィ」、「表示する文字／記録する文字」、「風景のなかの文字」「メッセージを伝える文字」の4つのパートに分けて紹介します。また、グラフィック・デザイナーとしての仕事の中から、文字のデザインが特徴的なポスターも小コーナーとして展示します。絵画に見られる文字と商業印刷物の文字を対比することで、横尾忠則の仕事における両者の連続性と断絶にも注目していただけるでしょう。本展の出品作品は、1960年代の最初期のポスターから未発表の最新作まで、60年に及ぶ横尾忠則の画業の中から、文字を含んだ作品約75点を精選します。それらをご覧いただくことで、様々なメディアを往還しながら制作を続ける横尾忠則の本質に迫ることができるでしょう。

服部 正 | 本館学芸員

Column 作品・資料の保存と活用



「絵画トレイ」に作品を取り付けているところ



収蔵庫内の様子

美術館には、作品や資料を永く保管し世代を超えて継承していくという大切な役割があります。そのために、調査・記録を行い良好な状態で保存できるよう適切な環境を整えなければなりません。横尾作品には、今のところ本格的な修復処置が必要な作品は少数ですが、今のうちから劣化要因を取り除くことで、将来予想される致命的な損傷から作品を守る事が重要です。

キャンバスに描かれた横尾作品の多くは額に入っていません。画面に何も加えないことが作品の鑑賞上好ましいと判断されるからです。しかしながら、額には「展示効果」と共に「作品保護」という役割があります。当館では作品をより安全で効率的に収蔵するため「絵画トレイ」という木枠に作品を固定する方法を考案しました(写真参照)。また、アーカイブ資料に関しては、今後継続的に整理作業を行い、無酸の段ボールで製作した「保存箱」に移し替える計画をしています。「保存箱」に資料を収納することで温湿度の変化や空気汚染物質の影響を緩和することができるのです。このように全体の保存状態を向上させたあとに、個々の状態に合わせた保存処置を行います。みなさまに収蔵庫をご覧いただくことはできないのですが、当館4階アーカイブルームでの整理作業の進み具合は、ガラス越しに垣間見ていただくことができます。美術館へお越しの際には4階にも足をお運びくださいませ。

上羽真弓 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT

01 開館記念アーティスト・トーク「反反復復反復」

2012年11月3日(土)14:00～ | 横尾忠則現代美術館 オープンスタジオ(1F)



点滴から戻られた横尾さん すっかりお元気です

トークの直前、横尾さんは急きょ病院で点滴を受けることになりました。前日の内覧会で相当お疲れだったので、無事にトークが開催できるか心配だったのですが、晴れやかな表情で戻ってこられた横尾さんはまさに舌(?)好調。美術館や、開館記念展への感想を引き出そうと試みるのですが、そう簡単にこちらの敷いたレールには乗って下さいません。「美術の話なんて、つままないから、もうやめましょうよ!」こうなったら、点滴の話題で切り込むしかありません。「体調が心配だから美人の看護婦さんを用意して、とおっしゃってましたが、本当に点滴受けちゃいましたね!」「何いつてんの、冗談とちがうよ。ちゃんとぼく専用の病室つけて、美人の看護婦さん雇ってくれなきゃ。この美術館は、それくらい自由な発想で、他ではできないことをやらない!」横尾さんの自由な発言に、生真面目な小生は終始翻弄されっぱなし。でも、新しい美術館に対する横尾さんの期待と意気込みはビシバシ伝わってきたのでした。

山本淳夫 | 本館学芸課長



300名を超えるお客様が参加されました



うなずいたり、笑ったり、横尾さんのお話に皆さん釘付けです

EVENT REPORT

02 細野晴臣ミニライブ

2012年11月25日(日)19:00～ | 横尾忠則現代美術館 オープンスタジオ(1F)
出演:細野晴臣(Vo., G.), 高田漣(G, Mandolin), 伊賀 航(B.), 伊藤大地(Dr.)



ライブでのキーボード演奏は非常に珍しいそうです



大人の雰囲気漂う贅沢なライブでした

当館のオープンスタジオでのイベントは通常無料なのですが、参加者が多数になることが予測されたため、閉館後の有料公演とし、抽選とさせていただきます。ところが、午後3時過ぎに会場入りした細野さん、オープンスタジオでいきなりリハを始めてしまったのです。居合わせたお客さんはびっくりして、どんと人だかりになっていきます。ふと我にかえった細野さん、「あれ、こんな状態でリハやっていいのかな。いま気づいたんだけど(笑)。本番も別にかわんないよ。いえいえ、本番はさらに素晴らしく、12曲+アンコール2曲が演奏され、とても「ミニ」とはいえない、大満足の一夜となりました。神戸の街が大好きだという細野さん。別れ際に、「ではまた、来年!」と確におっしゃいました。果たしてライブ第二弾が実現するのか? 今回残念ながら抽選に外れた皆さまも、どうかご期待下さい。

山本淳夫 | 本館学芸課長

EVENT REPORT

03 横尾忠則「歳末大公開制作」

2012年12月7日(金), 8日(土), 9日(日), 23日(日), 24日(月・祝)の開館時間中随時
横尾忠則現代美術館 オープンスタジオ(1F)



軽妙なトークで会場を沸かせる糸井重里さん



淡々と筆を走らせる横尾さん



磯崎憲一郎さん(左)とあがた森魚さん(右) お三方とも素敵な笑顔です

横尾さんは、いろんな意味で「ひと味違う」アーティストです。公開制作もそのひとつですが、例えば「具体」のようにアクション性の強い絵画の場合は、制作プロセスそのものがパフォーマンスとして成立することも理解できます。ところが、横尾さんのように具象的な作品の制作過程を公開するというのは、他にあまり例がないのではないのでしょうか。今回、のべ5日で150号が1点に100号が2点、計3点が完成しました。150号は途中で塗りつぶして完全に描き直されたので、本当に短時間で制作されたことになります。みるみるうちに画面が劇的に変化するので、まったく油断なりません。

さらに今回、ものすごく豪華なゲストが飛び入り参加されました。12月8日、コピーライターの糸井重里さんとのトークの様子は、「ほぼ日刊イトイ新聞」のサイトでもリアルタイムでテキスト中継されました。驚くべきことに、二人の絶妙な掛け合いは、控室でも、打ち上げ会場でも全く同じテンションでした。12月23日には作家の磯崎憲一郎さん、歌手のあがた森魚さんが来館されました。新しい小説の表紙に、公開制作された作品をぜひ使いたい、と申し出られた磯崎さんに対し、横尾さんは「じゃあ、小説のタイトルを作品の題名にするよ」と逆プロポーズ。あがたさんはやおらギターを取り出すと「佐藤敬子先生はザンコクな人ですけど」を熱唱、圧倒的なパフォーマンスで大いに会場を沸かせました。

山本淳夫 | 本館学芸課長

EVENT REPORT

04 オープンスタジオコンサート Vol.1 北浦洋子ヴァイオリンコンサート

2012年12月2日(日)14:00～ | 横尾忠則現代美術館 オープンスタジオ(1F)



美術館に響き渡る優雅な音色

多くの皆様に横尾忠則現代美術館により親しんでいただくため、1階のオープンスタジオを活用して、定期的にコンサートを開催いたします。名付けて『オープンスタジオコンサート』。第1回目は、北浦洋子さんのヴァイオリンコンサートです。ピアノは竹内素子さん。関西を中心に国内外で幅広く活躍されているお二人です。北浦さんと竹内さんは息の合った演奏を展開され、130名を超えるお客様も、ヴァイオリンとピアノの奏でる美しい音色と調べに耳を傾けていました。演奏は、おなじみのチャイコフスキーやクライスラー、サラサーテの楽曲のほか、神戸にゆかりの天才音楽家貴志康一の「竹取物語」を演奏するなど、神戸の地に新しく生まれた「横尾忠則現代美術館」の開館を祝うにふさわしい、楽しいコンサートになりました。このオープンスタジオコンサートは、毎月1回程度のペースで開催します。ご期待下さい。

竹林潤治 | 本館次長兼総務課長

Editors' Choice MUSEUM SHOP

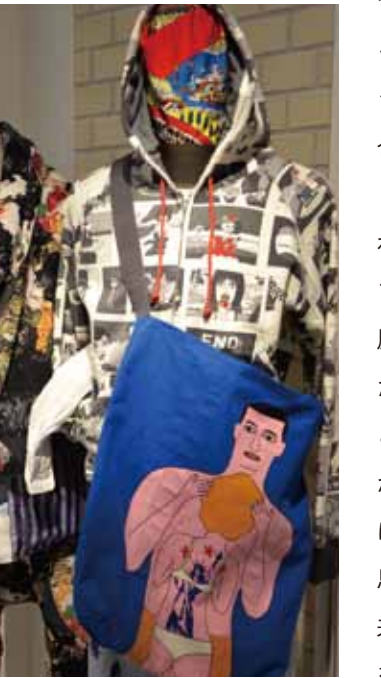
営業時間・定休日:美術館に準ずる
お問い合わせ:078-855-5697



当館1階にオープンしたミュージアムショップでは、多数の横尾グッズを取り扱っています。ポストカードや関連書籍、文具をはじめ、衣類やファッション小物など、これだけ充実したラインナップを揃えているのは、数あるミュージアムショップの中でも他に例がありません。横尾テイストが凝縮されたショップは当館の見どころの一つです。昨今、魅力的なミュージアムショップは美術館になくはならない重要な要素の一つとして、ますます注目されています。当館も、来ていただいた方楽しんでいただけるショップを作るべく、横尾さんと入念な打ち合わせを重ねてきました。レジの配置やポストカードの見せ方など、一つ一つにそのこだわりが反映されています。「ブランド・ショップのようなすましたデザインよりも、駄菓子屋さんのように商品が溢れていて、お祭りみたいなあたたかみのある雰囲気が好き。」という横尾さんの言葉どおり、色んなグッズが飾られた棚を一つ一つ見ていくのは、確かに駄菓子屋さんに行った時のワクワク感を思い起こさせます。



開館記念展第1弾「反反復復反復」のポスターと図録を購入出来るのは当館だけ。展覧会図録は通販でも取り扱っています。ポスターは数量限定ですのでお早めどうぞ!



新商品の大きめのバッグはマチ付きなのでA3サイズも余裕で入ります。手提げと肩掛けの2WAYです。



大仏猫は全部で4色。大仏猫がストラップになった「魔除け猫ストラップ」も人気です。



たくさんの方が一緒に見られるように配慮されたポストカードコーナー。

作花麻帆 | 本館学芸員補助